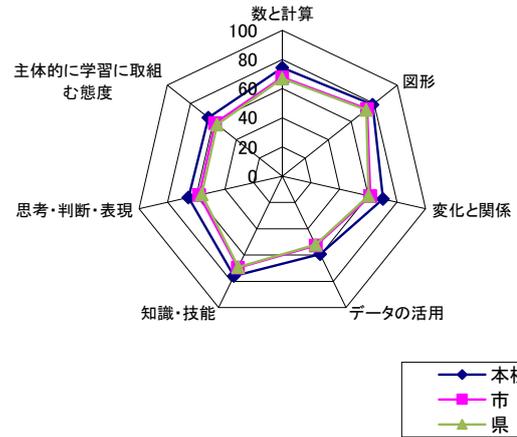


# 宇都宮市立富士見小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.4	67.8	67.0
	図形	78.6	73.9	73.1
	変化と関係	70.3	61.4	60.2
	データの活用	59.3	52.7	52.1
観点	知識・技能	76.0	69.7	69.2
	思考・判断・表現	65.5	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	64.3	58.5	56.7



## ★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○本領域の平均正答率は74.4%で、県の正答率を7.4ポイント上回った。</p> <p>○「わり算・計算のきまり」の平均正答率は、80.2%で、県の正答率を0.3ポイント以上上回った。</p> <p>●「小数第一位×整数の計算」の平均正答率は、79.3%で、県の正答率を1.3ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・基本的な計算技能の向上を目指して、ステップアップシートや計算検定を行い、繰り返し問題練習に取り組み定着を図る。</p>
図形	<p>○本領域の平均正答率は78.6%で、県の正答率を5.5ポイント上回った。</p> <p>○「千円札のおよその面積を選んでいる」の平均正答率は51.7%で、県の正答率を10.9ポイント上回った。</p> <p>●「直方体のある辺に平行な辺を理解している」の平均正答率は69.0%で、県の正答率を0.7ポイント下回った。</p>	<p>・問題を繰り返し解いたり作図したりする活動の積み重ねを通して、立体図形の辺や面の位置関係についての知識や理解を十分に定着させたい。</p>
変化と関係	<p>○本領域の平均正答率は70.3%で、県の正答率を10.1ポイント上回った。</p> <p>○「伴って変わる2つの数量の関係を表すことができる」の平均正答率は62.1%で、県の正答率を25.2ポイント上回った。</p> <p>●「基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらの包帯がよくのびるのかを説明している」の平均正答率は47.4%で、県の正答率を上回ってはいるが、50%未満であった。</p>	<p>・様々な表や図、グラフの特徴を理解し、正確に読み取ることができるようにする。</p> <p>・2つの数量の変化の割合を求め、それをもとに比較して分かったことを順序立てて説明する文章問題を反復練習する機会を確保する。</p>
データの活用	<p>○本領域の平均正答率は59.3%で、県の正答率を7.2ポイント上回った。</p> <p>○「2つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明している」の平均正答率は44.8%で、県の正答率を13.5ポイント上回った。</p>	<p>・グラフの読み取りの技能の習得にとどまらず、グラフを比較し、共通点や相違点を考えさせるなど、グラフを活用した指導を行う。</p> <p>・根拠を明らかにして相手に伝わりやすい説明ができるように、日ごろから順序立てて考えさせ、伝え合う活動に取り組みさせる。</p>